

国語科学習指導案

場所 3年1組教室

1. 日時 平成18年12月5日(火曜日) 3校時
2. 単元名 「こそあど言葉」
3. 単元目標 指示語の働きについて知り、自分の表現や理解に生かす。
「こそあど言葉」の使い分けを、進んで話し合おうとする。(関・意・態)
「こそあど言葉」が何かを指し示す言葉であることや、話し手と聞き手の距離などによって使い方がちがうことなどを理解する。(言語事項)
会話や文章の中で、正しい指示語を使うことができる。(言語事項)
4. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫
 - (1) 単元と指導について
「こそあど言葉」は、普段何気なく使っている言葉ではあるが、そのきまりについて意識することは少ない。もちろん、子どもたちはこの単元を学習する前から「こそあど言葉」を日常会話の中でたくさん使っている。現場を指示する用法から出発するが、「こ」「そ」「あ」を単なる距離でとらえるのではなく、「こ」「そ」における「自分領域」と「相手領域」の意識、「こ」「あ」における近接性の意識など、言語感覚としての使い分けを把握させたい。また、こそあど言葉の表を整理することで、言葉の法則性・体系性が意識できるようになるとよいと考えている。
(知的好奇心について)
今回、「こそあど言葉」の「この」「その」「あの」の使い分けを体感しながら実感することが出来るように、「おいしいりんごはどれだ?!」ゲームを取り入れた。ゲームをしながら体感出来るということで、楽しみながら学習をすることができる。さらに、本学級の実態から考えても、ただ考えるよりも身体を動かしながら考えることの方が、子どもたちも好きなのではないかと考えた。
(関わり合いについて)
ペアになってゲームに取り組むという活動で、相手のジェスチャーや目線ではなく、言葉のみを手がかりにクイズに答えるという活動がある。その中で、子どもたちの関わり合いが見られるとよいと考えている。
5. 指導計画(全2時間扱い)
 - 第1時 「こそあど言葉」とはどのような言葉なのかを押さえ、日常会話のなかでどのような「こそあど言葉」が使われているのかを思い出す。
 - 第2時 「こ」「そ」「あ」の3つの使い分けについて話し合い、実際に試してみる。(本

時)

6. 本時について

(1) 本時の目標

「こそあど言葉」の「こ」「そ」「あ」がどのような場合に使われるのかを理解し、適切に使うことができる。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の留意点 (評価)
<p>1、前時を振り返る。 前時で学習した、「こそあど言葉」という言葉を思い出し、日常会話の中で使われる「こそあど言葉」にはどのようなものがあったかももう一度思い出してみる。</p> <p>2、「こ」「そ」「あ」の使い分けについて、話し合う。(ペア交流)</p> <div data-bbox="188 855 743 954" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>「この」「その」「あの」はそれぞれどのように使い分けるのかを考えよう。</p></div> <div data-bbox="212 1379 719 1429" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>おいしいりんごはどれだ?!ゲーム</p></div> <p>「この」について話し合う。 ・まず、モデリングとして代表ペアに前で演じさせる。 児童A「このりんご、おいしいよ。」 T 「さあ、今Aくんは、Bくんにどのりんごのことを言ったのでしょうか。予想はついた?」</p> <p>・次に、それぞれのペアで向かい合わせになって同じように演じさせる。その際、次の2点に着目させるようにする。 Aが言った「おいしいりんご」がBに伝わっていたか。 Bは、なぜそのりんごがおいしいと思ったのか。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・最後に、全体で「この」はどのような時に使うのかを考える。 「その」「あの」について話し合う。 ・同じように、まずモデリングとして代表ペアに前で演じさせる。 児童A「そのりんご、おいしいよ。」 (以下と同じ) (別のペア) 児童A「あのりんご、おいしいよ！」 (以下と同じ) ・再びペアになり、同じように演じさせる。その際、次の点に着目させる。 Aが言った「おいしいりんご」がBに伝わっていたか。 Bは、なぜそのりんごがおいしいと思ったのか。 (全て終わってから)「その」と「あの」の違いは何か。 ・最後に全体で「その」「あの」はどのような時に使うのかを考える。 <p>3、全体で、「こ」「そ」「あ」の使い分けのきまりを確認する。(ワークシート)</p> <p>4、ワークシートで「こそあど言葉」についての演習をし、3で確認したことの定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に出させている「こそあど言葉」をあらかじめランダムに黒板に掲示しておく。 <p style="text-align: center;">「こそあど言葉」の意味について理解しているか。(言語事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初め、児童は「こ」「そ」「あ」「ど」の使い分けについて「近いとき・中くらい・遠いときで使い分ける」という反応をすることが予想されるので、「近かってどれくらいまでのことを言うの?」「中くらいは?」「遠いっていうのは?」などと揺さぶり、児童の考えの幅を広げるような声かけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・Aには、目線で教えたり、身振りで教えたりしないように注意させる。
---	---

	<p>話し合いに意欲的に参加しているか。 (関心・意欲・態度)</p> <p>「こそあど言葉」の使い分けについて理解しているか。(言語事項)</p> <p>適切に「こそあど言葉」を使うことができるか。(言語事項)</p>
--	--

(3) 本時の視点

こそあど言葉の使い分けを話し合うために「おいしいりんごはどれだ?!」ゲームは有効的であったか。

こそあど言葉の「こ」「そ」「あ」を使い分け、会話文の中で適切に使うことができていたか。